

(様式2)

令和 4 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102010		
法人名	社会福祉法人 仁成福祉協会		
事業所名	グループホーム しんせい		
所在地	新潟市江南区曾川甲1333番地1		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年2月22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 特別養護老人ホームに併設しており、現在はコロナウイルス感染防止のため中止となっていますが、誕生会・納涼祭などのグループホームだけでは出来ないことも実施しています。
2. 現在はコロナウイルス感染防止のため行っていませんが、行事などでは様々なボランティアさんの参加協力を得て、外部の方達と接点を持つ良い機会となっております。
3. 誤嚥性肺炎の予防のため口腔ケアに力を入れ、食事の前に口腔体操を行っています。訪問歯科の先生の支援を受けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは「明るく、楽しく、和やかに」を理念とし、「家庭にあるがごとく」を目標に日々のケアに取り組んでおり、ホーム全体にアットホームな空気を感じられた。

ホームは同法人の特別養護老人ホームに併設しており、敷地の向かいには小学校がある。周囲に民家は少ないが、自治会長や地域コーディネーター、ボランティア等と連携を図りながら、地域とのつながりを構築してきた。コロナ禍のため交流が難しい状況ではあるが、地域とのつながりの重要性を理解し、今、できる方法を探りながら利用者地域をつないでいる。

利用者個々の意向やこれまでの暮らし方を大切に生活作りがなされ、役割や趣味活動、避難訓練といったホーム全体での取り組みなどにおいても利用者個々の個性や力が発揮されている。外出については思うような取り組みが行えず苦慮しているが、ホームに閉じこもらない生活の重要性を職員はよく理解しており、利用者の思いに沿った外出支援を行いたいと考えている。利用者のストレス等に配慮し日々の生活が楽しいものとなるよう、食事の工夫(テイクアウト、手作りなど)や行事、レクリエーションなどホーム内の活動を充実させている。

共用空間や居室づくりは利用者の意見を取り入れながら、季節を感じたり、写真や利用者の書、手作り作品を飾るなど、楽しくて心地よい空間作りがなされている。

外部評価の結果や運営推進会議で受け取った意見、利用者から日々聞かれた意向を大切に、ケアや業務の改善につなげている。課題に取り組む管理者をはじめとする職員の姿勢が今後のよりよいサービスにつながることを期待されるホームである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体で理念を共有できるように、毎年度末に部会内で話し合い、結果を部会録に残している。	「明るく、楽しく、和やかに」を理念とし「家庭にあるがごとく」を大切に日々のケアを行っている。理念は部会において毎年振り返りや確認を行っている。他部署からの異動や入職時にも説明を行い、共通理解のもと、利用者へのケア提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止のため中止しているが地域交流会や地域の茶の間、資源回収の参加していた。地域コーディネーターさんを通じて向かいの小学校の行事にも招待して頂いていた。今年は小学校の文化祭に作品のみ展示させてもらった。絵手紙教室さんと時候の挨拶のやり取りをしている。	コロナ禍以前は近隣小学校との交流やボランティアの受け入れなどで地域とのつながりを構築していた。現在は地域コーディネーターから学校や地域の情報を得たり、自治会長や民生委員から運営推進会議に参加してもらうなど、今できる方法で地域とのつながりを継続している。野菜の差し入れや手作りマスクの寄贈などもあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナウイルス感染防止のため実行できていないが地域の行事・交流会に参加することで情報発信を行っている。平成28年には地域の方にむけてホームの説明会を行った。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス感染防止のため開催を中止している。報告書を関係者に郵送している。	新型コロナウイルス感染症対策のため書面にて開催している。ホームからは行事や避難訓練の取り組みなどについて報告し、委員からの意見を改善に活かしている。運営推進会議の委員は、利用者代表、家族、自治会長、民生委員、他のグループホーム職員で構成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員・市の介護相談員に参加して頂き意見交換していた。現在はコロナウイルス感染防止のため実施していない。生保利用者の担当ワーカーとも電話でやりとりしている。	地域包括支援センターの職員や市の介護相談員からは運営推進会議を通じて意見をもらい、連携を図っている。地域包括支援センター主催の研修にも参加している。生活保護については保護課の職員に問い合わせるなど制度や手続き等について市の担当者に適宜確認し、関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人独自のマニュアルを職員に配布し、活用している。玄関の施錠、日中の開放していることの意味を新人職員入職時に説明している。研修はコロナウィルス感染防止のため参加していない。	『身体拘束廃止委員会』を設置し、法人でマニュアルを作成して各職員に配布し研修を行っている。日中は玄関の施錠を行わず利用者の自由な行動を支援しており、身体拘束を行った事例もない。グループホーム部会でも外部研修の伝達を行い理解を深めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人独自のマニュアルを職員に配布し、活用している。職員のストレスチェックは毎年受けている。ホーム独自で心理学を学んだ職員からストレスについての学習会をおこなった。外部の研修はコロナウィルス感染防止のため参加していない。	管理者による伝達講習や職員が講師役となつての研修の開催など虐待について学ぶ機会がある。心理学を学んだ職員によりストレス対応についての研修も行った。不適切ケアについての振り返りも行った。気づいた時点で職員間で声を掛け合うなど、気づきを改善につなげている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍前は地域包括支援センターの職員から研修をしてもらっていたが、現在はコロナウィルス感染防止のため行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分に説明し、理解を頂いている。解約・改定の際も同様に十分に説明している。文章で説明し、分からない場合は電話でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。利用者様の意見は『苦情要望受付書』として記録に残し職員全員が確認・対応している。	家族に対しては、苦情要望受付書や意見箱の設置など意見を出す方法を設けている。また、運営推進会議の中でも意見を聴く機会があり、頂いた意見を業務の改善等につなげている。利用者には日々の会話の中で意見を聞いている。利用者の意見も苦情受付書にきちんとまとめ、対応策の検討と改善への取り組みがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中から提案や意見を出し合ったり、グループホームの部会前に意見を出してもらい、話し合いを行っている。	月1回の部会での話し合いで、業務の見直しや休憩時間の確保などについて職員から意見が出されている。統括管理者(併設特別養護老人ホームの園長)につなげる必要のある意見については管理者から報告されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム内で、お互いの仕事についてサポートしたり、それぞれの問題点や悩みを聞き仕事内容を改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染防止のため限定的ではあるが、参加可能な研修への参加および施設内、グループホーム内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウイルス感染防止のため交流は行われていないが、運営推進会議に近隣のグループホームに参加して頂き交流を図っていた。小規模多機能の運営推進会議にも参加させて頂いていた。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様より要望・意向を伺い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様より要望・意向を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状態確認の連絡を行い現状把握。ケアマネ等へ連絡しご本人に「今」何が必要とされているか相談・検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が得意で人に教えていたようなこと(笹だんごの作り方、干し柿の吊るし方・等)を習ったり一緒に料理を作ったり職員の人生相談をしたりと相互に支えあっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウイルス感染防止のため面会は禁止となっているが定期的に利用者様の様子を電話で報告している。	3ヶ月に1回、ホームの様子を伝える「しんせい便り」や居室担当職員による利用者個々の様子を記した手紙を家族に郵送し情報共有を図っている。生活の様子だけでなく「受診報告書」で健康面の状態も伝えている。生活用品や趣味活動に必要な物品の用意などには家族から協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止のため面会禁止となっているが、手紙のやりとりなどで関係が途切れないようにしている。また、携帯電話を持っている利用者様は自由に掛けたり受けたりしている。	コロナ禍以前は馴染みの理容店に案内するなどの支援をしていた。現在は馴染みの方との手紙のやりとりや電話での交流を支援している。利用者の出身地域の観光パンフレットを用意したり、スマートフォンで馴染みの喫茶店や訪問したい場所の画像をお見せして、話題にするなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しコミュニケーションを図ることができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あればその都度対応している。退所した方から頂いた植木を大切に育てている。また、退所後にお亡くなりになったあと、ご報告とお礼に来て下さったご家族様がいらした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から個人の希望や思い(希望)を伺い、尊重に努めている。	リビング以外にソファの設置をするなどゆったり過ごせる場所を作り、利用者と共に過ごしながらいを聞いたり、夜間帯の静かな環境で話を聞くなど、利用者個々のタイミングで意向を確認している。ケアプラン作成時にも意向を確認し、ケアプランに反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前入所後を問わず、ご本人・ご家族・担当ケアマネ等から今までの生活状況を伺い、これまでの暮らしの中で『何を大切に生きてきたのか』を知り、これからの暮らしにどうつながっていくか検討している。	入居前に職員2名で訪問面接し、利用者や家族、担当の居宅ケアマネージャー等からこれまでの生活について確認している。情報はアセスメントシートにまとめ、ケアプランの更新時に見直しを行っている。可能であれば入居時に自宅にうかがい、自宅での生活が入居後も継続できるような環境作りに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から得た『気づき』は記録に残し共有。日々の生活に反映させている。利用者様で1日のスケジュールを持っている人にはそれに添うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を参考に担当職員と作成担当者が原案を作成。担当者会議を行い検討・確定している。コロナウィルス感染防止のためご家族には電話で聞き取りしている。	3ヶ月に1回モニタリングを行い、状態に変化がなければ6ヶ月に1回ケアプランを作成している。コロナ禍のため、家族からは電話や来訪時に意向を聞いている。利用者と家族の意向を踏まえて職員で会議を行い、利用者の思いが叶うための具体的なケアプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録には色を変えて時間を記入し見やすいよう工夫している。朝夕の申し送り時には情報の共有に努めている。生活記録のファイルに介護計画をコピーしたものを綴り、全職員が内容の把握と実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化やご家族の要望に合わせて、その都度職員間で話し合いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向かいの小学校から運動会や文化祭に招待して頂き参加させてもらっていた。月1回地域の資源回収にも参加させてもらっていた。現在はコロナウィルス感染防止のため実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後グループホームの協力病院での受診を希望される方には職員が付き添い対応支援している。また、以前からのかかりつけ医を継続したい方はご本人ご家族の希望に添い行っている。	入居時に意向を確認し、ホームの協力病院への受診希望については職員が受診に同行している。受診の内容は報告書にまとめ家族と情報共有している。協力病院には夜間でも相談することができる。また、併設の特別養護老人ホームの看護師にも受診の相談や対応について相談できる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がみられた時は併設特養の看護師に相談、助言をもらっている。協力病院の看護師にも相談、助言をいただける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い、病棟へサマリー提出する。入院中は病院のMSWを通して状態の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期についての方針を説明している。また、退所基準についても文書を用いて説明している。なるべくご家族の意向に添った支援を基本としているが、グループホームの状況も説明、ご理解を頂いている。	「契約の終了又は解除と退所時の支援について」と題して重度化や看取りについてのホームの指針がまとめられており、入居時に説明されている。ホームでの看取りは行っておらず、利用者の状態変化に応じて他施設等への住み替えを支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるよう、管理者による抜き打ち訓練を行っている(訓練記録に残しておく)救急隊員に引継ぎがスムーズにいくように『傷病者情報連絡票』を作成して受診ファイルに入れてある。	前回の外部評価で急変時の対応の充実について指摘を受け、方法を検討し実践につなげた。急変や事故発生時の対応について各種マニュアルが整備されており、研修を行っている。転倒、発熱、嘔吐時など状況別のフローチャートの作成を法人看護師に依頼し、職員がすぐに確認できる場所に設置し、落ち着いて対応できるよう準備されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自で、毎月日中・夜間を想定して火災・地震・水害時の避難訓練を行っている。また、非常食の消費期限が迫ったところに災害時を想定して食べている。	火災、地震、水害など各種災害を想定して毎月避難訓練を行っている。民生委員に災害時の協力をお願いしている。併設の特別養護老人ホームとの合同訓練も行っており、消防署からの助言を避難行動に活かしている。ホーム、法人の両方で備蓄品を準備し、非常食の試食も行って利用者にとって食べやすいか等を確認している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ひとりに合わせた援助方法で対応。部屋に入る時はノックし、了解を得てから入室している。個人情報の書類は鍵のかかる棚で保管している。	個人記録は施錠できるロッカーに保管している。写真の扱いについては入居時に承諾を得た範囲で使用している。居室の表札についても個々の利用者の意向に沿っている。言葉かけやケアにおいて利用者個々のプライバシーや気持ちに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がなるべく選択肢のある質問や答えやすい問い掛けを行うようにしている。職員とも何でも言いやすい関係を築けるよう日々寄り添い、日常生活の中からも希望をくみ取り実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ひとりのご希望に添えるよう(入浴時はご本人のペースで入ってもらおう等)支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ前はボランティアの美容師さんから来てもらい、希望の髪型にしてもらっていた。地域の行きつけの理容店に出掛ける方もいた。コロナウィルス感染防止のため現在は職員がヘアカット行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には食べたい料理をリクエストしてもらい提供している。利用者様がチラシ広告をみて、食べたい物があれば購入する時もあった。ケアプランで夕食の味噌汁作りをやってもらっている利用者様も。月1回「美食クラブ」として季節のおやつを作り楽しんで頂いている。	法人の栄養士が献立を作成しているが、利用者の希望も伝えている。朝食、昼食は併設の特別養護老人ホームの厨房で調理したものを運んでいるが、夕食はホームで作っている。盛り付けや片付けなど利用者の力を食事場面で活かしている。「美食クラブ」があり、テイクアウトやおやつ作り、行事や誕生日の祝いなどで利用者の希望を取り入れながら食の楽しみを実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体の状態にあったメニューを提供している。摂取量はそれぞれチェック表に記入し、摂取量低下がある方には補食等で多く摂ってもらえるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にしている。状態に応じて歯間ブラシや舌ブラシ、専用ジェルを使用している。最後に職員が仕上げ磨きをする方も。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、お一人一人に合わせた声掛けを行い誘導している。利用者様に合った声掛けをこまめに行い、トイレに行かれた時は付き添いをしている。	排泄チェック表で確認し利用者個々の状態に合わせて見守りや声掛けなど必要な支援を行っている。入院によってリハビリパンツ使用となったが、退院後のホームでの支援により布パンツの使用へと状態が戻った方もいる。排泄用品の保管方法も利用者の羞恥心や自尊心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を摂って頂き、食事には繊維質が豊富なものを取り入れるようにしている。水分を多く摂って頂く。朝のラジオ体操と歩行訓練も実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人お一人の習慣や希望に合わせて入浴していただいている。ゆっくりと時間が取れるよう配慮している。湯あたりしやすい方には入浴前の血圧チェックと浴槽内の時間も計っている。	週2回の入浴が基本だが、利用者の希望に応じて随時対応している。入浴に気持ちが向かない際には、時間や日をずらし気持ちよく入浴できるよう工夫して支援している。リンゴ湯やミカン湯等の変わり湯で利用者の入浴の楽しみを増やしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、利用者様の希望でテレビを観て頂く時もある。好きなテレビドラマがある日は遅くまで起きている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の内容を個別ファイルで管理し、いつでも確認することができる。頓服薬についても朝夕の申し送り時に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの飲み物(コーヒー等)を飲んで頂いている。歌が好きな方ならCDを流したり、それぞれ好きなことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止のため外出はできていないが、散歩などはなるべく希望に添えるよう配慮している。	コロナ禍のため思うような外出支援は行えていないが、職員は利用者の外出の希望を叶えたいという意向を持っている。現在は、受診時が外出の機会となっている。併設施設がある利点を活かし、可能な範囲の移動や散歩で気分転換を図っている。	特別養護老人ホームが併設されており、感染防止は法人全体としての方針に沿っての対応になると思うが、グループホームに求められるケアや特性における外出支援の重要性の共有を図り、今後の情勢に合わせてながら少しずつ外出支援が再開していけることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て施設で管理している。個人所有は行っていない。希望がある場合は職員が預かり金から購入させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して自由に使っている方もいる。家族や知人に手紙を書いてやり取りしている方も。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先とホールに季節を感じられる小物を飾り付けている。廊下の突き当りにソファを置いてくつろげるようにしている。	食事席以外に要所要所にソファを設置し、利用者が外の景色を眺めたり、ゆっくり過ごせる空間となっている。季節を感じられる装飾や行事の写真の掲示があり、利用者の楽しみにつながっている。模様替えについて利用者に相談したり、利用者の書の力を活かした掲示物を作るなど、利用者と共に共用空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと廊下の突き当りにソファを設置し、くつろげるようにしている。廊下のソファは利用者様の休憩場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活で慣れ親しんできたなじみの物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるようにして頂いている。	入居時に説明し、利用者に馴染みの私物の持ち込みを働きかけている。居室内の家具の配置などは家族にも相談し、自宅での動きに合わせるなど配慮している。利用者それぞれに、入居後に取り組んだ書や塗り絵などの作品が飾られ、その人らしさが伝わる居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の意欲を踏まえたなかで支援を心掛けている。各居室の入り口には大きく名前を提示し、分かりやすくしている。トイレや浴室も分かり易い言葉で工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				